

## 名誉会員追悼



故 名誉会員 Heinrich-Wilhelm Gudenau 君

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、ドイツ連邦共和国RWTH Aachen (アーヘン工科大学) 教授 Heinrich-Wilhelm Gudenau 氏は、2019年8月6日ご逝去されました。ご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

Gudenau 教授は、1936年ドイツ Wanne-Eickel で生まれ、アーヘン工科大学で学び、1963年にアーヘン工科大学の Dipl.-Ing、1967年に同大学鉄冶金学科にて Dr.-Ing を習得されました。1971年には Dipl.-Wirtsch.-Ing (経営工学士) も取得されました。1972年に教授資格 (Habilitation) を得られ、そして1982年にアーヘン工科大学鉄冶金学科正教授 (終身教授) に就任されました。その間、1972～73年には東京工業大学に滞在され、教育研究にあたると同時に NKK (現 JFE スチール) 研究所にて新製鉄の基礎となる共同研究に従事されました。

教授就任以降、アーヘン工科大学での製鉄プロセス分野での研究活動、教育指導に加え、欧州国内はもちろんのこと、日本、中国、韓国、インド、ブラジル、北米、豪州、エジプト、ウクライナなど多くの大学で教鞭をとられ、研究指導にもあたられました。日本鉄鋼協会の重要な国際交流の場となっている日独セミナーの運営にも多大な貢献をされました。2001年には大学の規定で、鉄冶金学科の教授としての職務から離れましたが、継続して、大学での講義、企業での研究指導に当たられました。その間、数多くの学位取得者を輩出され、海外から多数の留学生を積極的に受け入れられておられます。特に日本の大学、企業からは数多くの留学生を受け入れて熱心な研究指導にあたり、その数は計20名以上にも及んでいます。Gudenau 教授の薫陶を受けた門下生は、ドイツ鉄鋼企業、エンジニアリング企業、海外の大学、企業の実務に就かれるなど、第一線の研究者、技術者の育成指導に多大な貢献をされました。北京科技大、瀋陽工業大学、ウクライナのドネプロペトロフスク大学の名誉教授に就任され、そして2004年に日本鉄鋼協会の名誉会員に推挙されました。

Gudenau 教授のご業績として、製鉄の主要な技術である高炉、原料処理、コークスに関する研究はもとより、高炉に依らない還元鉄プロセスなど新製鉄プロセスの研究に早くから着手され、特に回転炉床プロセスにおける炭材内装鉍の還元、溶融機構に関して先駆的な成果を出されているのはよく知られています。その知見は商用炉の設計にも活用されています。さらに、製鉄分野に留まることなく、エネルギー、環境問題の重要性にも着眼され、石炭のガス化技術、製鉄所からの有害物質の除去など産業界にも応用できる研究開発に多大な貢献をされました。Gudenau 教授の視野の広さ、先見性、高い見識、若い研究者育成にかける情熱は関係者、誰しもが感じていたところでありました。

特筆しなければならないのは、大変な親日家で度々、来日され、日本鉄鋼協会、大学で特別講演を何度もこなされ、日本の鉄鋼研究者との関係を大事にし、またそのお人柄として、大きな体で誰にでも笑顔を決やさずに接し、若い研究者を鼓舞し、励ましているお姿は製鉄関係者外の方でも記憶にあるかと思います。今回の突然の訃報に接し、哀悼の念に耐えられません。氏の鉄鋼技術、学術分野への多大なご業績と、本会の発展になされたご貢献を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

2019年9月

日本鉄鋼協会 会長 田中敏宏